



買い物に行ける力をシェアしよう!!

えんじよるの通信

特許取得

えんじよるは「買物に困っている人」と「地域のボランティア」を、電話の着信だけでマッチングさせることができる、日本で初めてのITシステムです。

目指すは、「買物弱者問題解決」と「助け合いあられる地域づくり」！
詳しくはホームページをご覧ください。

えんじよるの

検索

1.地域包括ケアシステムとは!?

5年前に改正された介護保険制度は、私たちにとって大きな発想の転換が必要な内容でした。それまでは全国一律の介護サービスの中から必要なものを利用できるというものでしたが、新制度では各市区町村が自分たちの地域に必要なサービスを、自分たちで「創り出す」事へと主軸を大きく変更したからです。

なぜこのような改正が行われたのでしょうか？

理由は財政的な要因です。超高齢化・少子化が進む中で社会保障費は不足し、全国一律のサービスを提供できなくなってしまったからです。このままでは大増税かサービスの大幅切り捨てか…の選択となり、そこで打ち出された方針が、専門性が必要な介護は専門職・事業者がしっかり支え、日常生活支援は、住民やボランティアの主体的な互助活動(助け合い)で支えていこうというものです。これがいわゆる「地域包括ケアシステム」といわれる仕組みです。

だから、これから各市区町村が行う「助け合いの推進」は今までとは比較にならないくらいシビアなものなのです。なにしろ住民同士の助け合いだけで、困っている人の生活を支えていかなければならないのですから。

この「助け合いの輪」を広げられるかどうか、私達が、将来孤独で不便な老後を迎えるか、それとも周囲の心温かな手助けを受けながら老後を迎えられるかの分かれ道なのです。

本当にすごいチャレンジですね！



ツルヤ軽井沢店・デリシア軽井沢店ボランティア



「世の中を少しでも幸せにする」という目的に賛同し、支援の輪に入れて頂きました。皆様とのふれあいで喜びと元気をもらっています。気軽に一度勇気をもってお買いものを頼んでみてください。新しい出会いを楽しみに、ご連絡をお待ちしています。

2.どうやって「助け合い」の輪を広げていくのか?



助け合いの輪を広げる為に、住民の生の声を広く確認する方法が「住民ワークショップ」といわれるものです。これは地域住民の皆さんが集まり、エリア毎に少人数のグループに分かれて話し合いをするものです。そこでは、自分たちが作りたい地域の姿を共有しながら、具体的な地域の課題について意見をどんどん出し合います。そしてそこで出た課題に対し、助け合いによる解決策を話し合うのです。

例えばこの住民ワークショップで、「この地域では買い物弱者問題が深刻だ」という意見が出たとしたら、それについての解決策を皆で話し合います。移動販売車を誘致するのもよし、乗り合いタクシーを整備するのもよし、「えんじよるの」を導入して住民同士で助け合うのもよし、という具合に。そしてそこで決まったことを、今度は行政と一緒に地域独自の仕組みとして形にしていくのです。

高齢になって独居で体が弱り、体も思うように動かなくなった時に、会話もなく家に閉じこもり切りというのはあまりに淋しい生活です。人が人として暮らしていくときに不可欠な心の充足や生きがいは、互助・助け合いの活動で一番に提供できるものではないでしょうか。

さあ、皆さんも地域の「住民ワークショップ」を一度覗いてみてはいかがでしょうか？そこでは待ったなしの地域づくりが、すでにスタートしていますよ！

ツルヤ佐久中央店ボランティア



日頃は高齢者に携わる仕事をしています。その中で、この「えんじよるの」の取り組みを知りました。一人でも、買い物に困っている方の手助けができるとうれしいです。お気軽にお電話ください。

*3/12日現在、90名の買い物援助者と25名の利用者が登録しています。どちらもまだまだ募集中。ホームページから！

買い物ボランティアマッチングサービス

えんじよるの

えんじよるの

検索

お問合せ 050-3579-3434 (みさいづ)